

船橋市リハビリセンター
令和2年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
	(1) 組織編成	1
	(2) 情報システムの構築	2
	(3) 職員の資質向上	2
2	サービス機能	3
	(1) 職員配置	3
	(2) 提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
	(1) 回復期病棟を持つ病院との連携	4
	(2) 医師会との連携	4
	(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携	5
II	利用状況	7
1	外来患者	7
	(1) 外来リハビリテーション患者数	7
	(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳	7
	(3) 年齢別・男女別外来患者内訳	9
	(4) 疾患別外来患者内訳	10
	(5) 地域別外来患者内訳	11
2	通所リハビリテーション利用者	12
	(1) 通所リハビリテーション利用者数	12
	(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳	12
	(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	13
	(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	13
	(5) 介護度別分類	14
	(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳	15
3	訪問リハビリテーション利用者	16
	(1) 訪問リハビリテーション利用者数	16
	(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳	16
	(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	17
	(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	17
	(5) 介護度別分類	18
	(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	19
4	訪問看護利用者	20
	(1) 訪問看護利用者数	20

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	20
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	21
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	21
(5) 介護度別分類	22
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	23
5 地域リハビリテーション拠点事業	24
6 リハビリ事業	24
(1) パワーリハビリ教室	24
(2) パワーリハビリフォローアップ	25
(3) プールリハビリ	25
Ⅲ 収支状況	27
Ⅳ 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	29
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	29
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率（通所リハビリ利用者について）	31
(3) 目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上	33
(4) 目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	34
(5) 目標5 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	35
(6) 目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率（訪問リハビリ利用者について）	37
(7) 目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	39
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	40
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	42
(10) 目標10 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	43
(11) 目標11 診療所部門 経常収支比率	44
(12) 目標12 訪問看護部門 経常収支比率	45
(13) 目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う	46

(資料)

資料1 組織図

資料2 センター内外の研修・学会

資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績

資料4 外来患者アンケート

資料5 通所リハビリテーションアンケート

資料6 訪問リハビリテーションアンケート

資料7 訪問看護アンケート

資料8 地域リハビリテーション拠点事業アンケート

I 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は、センター長を補佐する役割として、副センター長を配置した。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B 訪問看護

訪問看護は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属し、訪問看護ステーションの利用者の看護及びリハビリテーションを担当した。

C リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

D 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

E サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

① 医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「ヒヤリハット」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。また、センター内で利用者が急変したことを想定し、急変時の対応勉強会を実施した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、

院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗いキットを使用し、自らの手洗い方法を見直す機会を設けた。ノロウイルス感染対策として、嘔吐があった場合の対応について、動画を交えた勉強会を実施した。

②個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

② サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整えた。生花の配置、患者満足度調査等を行った。接遇向上を目指して、各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、朝礼の際にスピーチする機会を設けた。また、センター運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行い、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制だけでなく、当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、専門性を高めるため、外部で行われる研修会にも参加を促した。

職員には、朝のミーティングを通じて、社会人や大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇に関する研修を行うなど意識付けを行った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	令和2年度
センター長兼院長兼医師	1
副センター長	1
チームマネジャー（看護師）	1
チームマネジャー（作業療法士）	1
看護師	5（3）
医師	1（1）
ケアワーカー	3（1）
理学療法士	13
作業療法士	4
言語聴覚士	2
ソーシャルワーカー	2（1）
健康運動指導士	2（1）
サポート部（事務）	5（1）
運転手	8（8）
総計	49（16）

() 内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア) 外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ) 通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ) 訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活を送れるように24時間の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーションの普及を図る目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会・地区勉強会・摂食栄養サポート勉強会を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、集合型研修会を行うことができなくなり、Webを活用した研修会や勉強会、動画配信など、新しい方法で、専門性の向上や地域リハビリテーションの普及啓発を図った。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

カ) リハビリ事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日より6月30日まで休止となった。7月1日から再開した際には、3密を避けるため、これまで午前・午後1枠ずつ実施していた事業の定員を半分にし、2枠実施することで、利用しやすいよう工夫した。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関と連絡を取り合い、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医と

の連携を図った。リハビリセンター発行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

- ① 近隣医療機関と連絡をとり、情報交換を行った。
- ② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。
- ③ 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。
- ④ 船橋市在宅医療支援拠点ふなぼーと事務局に出向き、運営について情報交換を行った。
- ⑤ 船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会と連絡を取り合い、会員である市内外のSWと情報交換を行った。
- ⑥ 「船橋市通所リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑦ 「船橋市訪問リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑧ 「ふなばし訪問看護連絡協議会」と連携を図り、会の運営に協力した。

リハビリテーション総合相談件数

(重複あり)

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談 ※	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	その他		
令和2年4月	18	0	0	3	0
令和2年5月	29	0	0	3	0
令和2年6月	37	1	0	4	0
令和2年7月	31	0	0	2	0
令和2年8月	38	0	0	2	0
令和2年9月	30	2	3	0	0
令和2年10月	37	1	4	2	0
令和2年11月	28	2	4	1	0
令和2年12月	23	1	1	0	0
令和3年1月	30	0	2	1	0
令和3年2月	35	1	0	2	0
令和3年3月	31	0	1	3	0
計	367	8	15	23	0

※センター以外に関する相談の内容

- ・1歳半の子の母からの相談。子どもがダウン症で発達が遅い。他市から転居してきた。親子で通い、立って歩く練習ができるところを探している。
→マザーズホームの情報提供をした。

・娘からの相談。80代後半の母が大腿骨骨折で入院した。回復期リハ病院に転院予定だが、他市の娘さん宅近くの病院にしたいと思うが、良いところはあるか。
→娘宅近くの回復期病棟のある医療機関の情報提供をした。退院後の生活を見据えてリハビリを行うため、現在の病院のソーシャルワーカーとよく相談することをお勧めした。

・CMからの相談。膝に手をつき歩行していたが、ここ1か月間で歩行困難となり、車いすをレンタルして家族が介護しているが、うまくいかない。施設入所も話が出ているが、自宅でできることはないか。

→介護の方法や要領を提案することはできそう。了解をもらい、CMと自宅を訪問し、訪問リハサービスの利用を提案した。

・県外（九州）在住の息子からTEL。船橋市在住の父が転倒、骨折し、市内医療機関に入院。回復期リハ病院への転院でも施設入所でもどちらでも良いと言われ、説明を受けた母がどうしてよいか分からないため、調べてほしいと連絡が来た。

→回復期リハ病棟について説明し、希望されたため、自宅近くの回復期病棟を持つ医療機関の情報提供をし、現在入院中の病院のSWと相談していくようアドバイスした。

・妻からの相談。脳梗塞の既往があり、閉塞性動脈硬化症で手術を受けた。入院して4日目、医師から退院の話があった。新型コロナウイルス感染症の影響で面会ができていないが、医師からは「歩けない」と軽く言われた。エレベータなしの3階に住んでいるため、退院できない。医師は忙しく話ができない。車いすになってしまうならば、転院先を探したいがどうしたらよいか。

→まずは、妻の不安な思いを受け止めた。MSWのいる医療機関であったため、どのような手続きをしたらよいか相談するようお伝えした。

II 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける令和元年度の利用実績は以下の通りである。
 なお、表示単位未満を端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	97	2,837

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	258
------	-----

① 外来リハビリテーション実績 (単位：人)

区分	新規（初診）	再診	計
令和2年4月	3	143	146
令和2年5月	5	145	150
令和2年6月	8	237	245
令和2年7月	5	273	278
令和2年8月	7	244	251
令和2年9月	9	322	331
令和2年10月	3	262	265
令和2年11月	1	262	263
令和2年12月	3	230	233
令和3年1月	2	202	204
令和3年2月	3	214	217
令和3年3月	0	254	254
合計	49	2,788	2,837
1日平均患者	0.2	10.8	11.0

② 一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察） (単位：人)

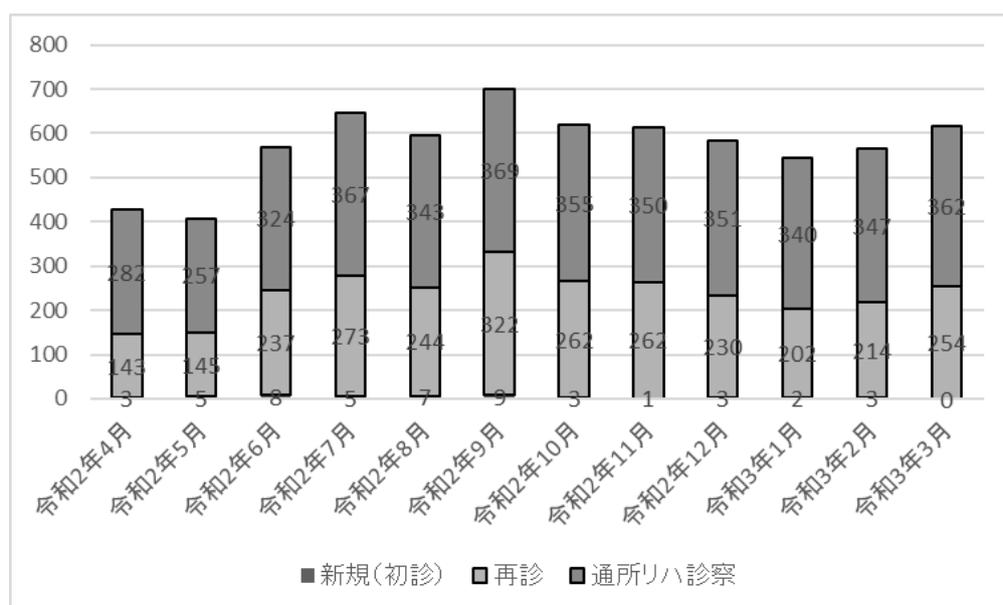
区分	通所リハ診察
令和2年4月	282
令和2年5月	257
令和2年6月	324
令和2年7月	367
令和2年8月	343
令和2年9月	369
令和2年10月	355
令和2年11月	350
令和2年12月	351

令和3年1月	340
令和3年2月	347
令和3年3月	362
合計	4,047
1日平均患者	15.7

③外来診療実績（①＋②）

（単位：人）

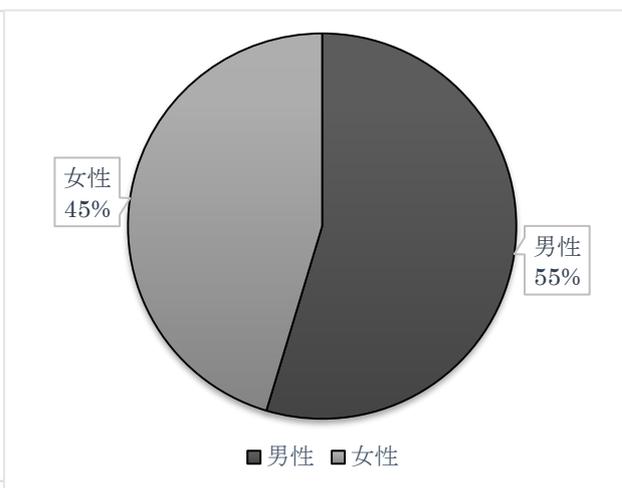
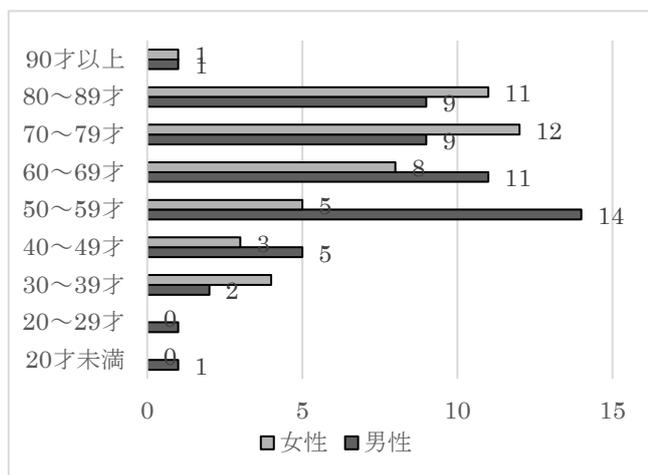
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診察	計
令和2年4月	3	143	282	428
令和2年5月	5	145	257	407
令和2年6月	8	237	324	569
令和2年7月	5	273	367	645
令和2年8月	7	244	343	594
令和2年9月	9	322	369	700
令和2年10月	3	262	355	620
令和2年11月	1	262	350	613
令和2年12月	3	230	351	584
令和3年1月	2	202	340	544
令和3年2月	3	214	347	564
令和3年3月	0	254	362	616
合計	49	2,788	4,047	6,884
1日平均患者	0.2	10.8	15.7	26.7



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

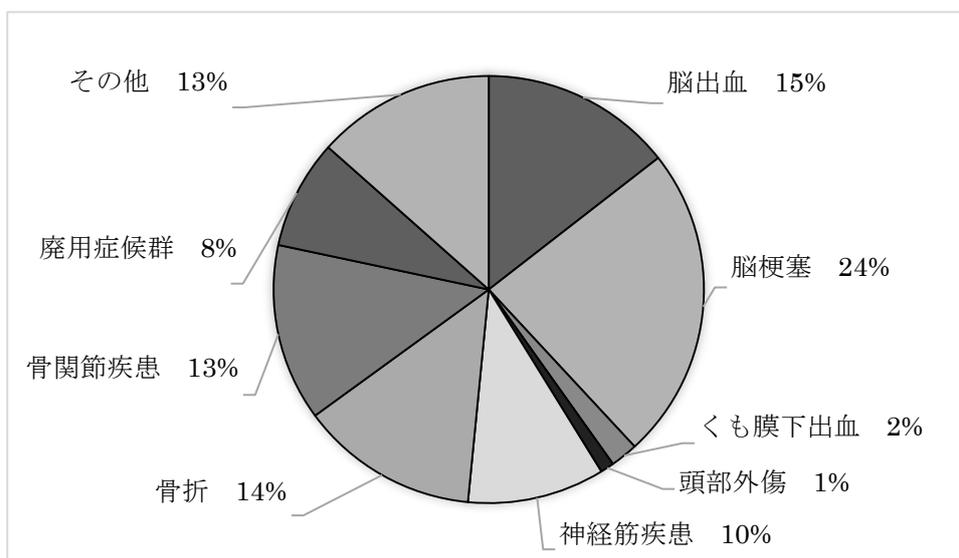
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	1	0	1	1.03%
20～29才	1	0	1	1.03%
30～39才	2	4	6	6.18%
40～49才	5	3	8	8.25%
50～59才	14	5	19	19.59%
60～69才	11	8	19	19.59%
70～79才	9	12	21	21.65%
80～89才	9	11	20	20.62%
90才以上	1	1	2	2.06%
合計	53	44	97	100%
平均年齢	63.1	68.0	65.5	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	14	14.4%
脳梗塞	23	23.7%
くも膜下出血	2	2.1%
頭部外傷	1	1.0%
神経筋疾患	10	10.3%
骨折	13	13.4%
骨関節疾患	13	13.4%
廃用症候群	8	8.2%
その他	13	13.4%
合計	97	100.0%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	21	21.65%
船橋市前原西	12	12.37%
船橋市習志野台	6	6.19%
船橋市中野木	5	5.15%
船橋市三山	4	4.12%
船橋市二宮	4	4.12%
船橋市薬円台	4	4.12%
船橋市芝山	3	3.09%
船橋市田喜野井	3	3.09%
船橋市高野台	2	2.06%
船橋市新高根	2	2.06%
船橋市前原東	2	2.06%
船橋市旭町	1	1.03%
船橋市夏見	1	1.03%
船橋市金杉	1	1.03%
船橋市咲が丘	1	1.03%
船橋市三咲	1	1.03%
船橋市山手	1	1.03%
船橋市七林町	1	1.03%
船橋市習志野	1	1.03%
船橋市駿河台	1	1.03%
船橋市西習志野	1	1.03%
船橋市滝台	1	1.03%
船橋市南三咲	1	1.03%
船橋市馬込町	1	1.03%
船橋市本町	1	1.03%
船橋市湊町	1	1.03%
船橋市前原東	1	1.03%
その他県内	13	13.40%
合計	97	100.0%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数 (単位：人)

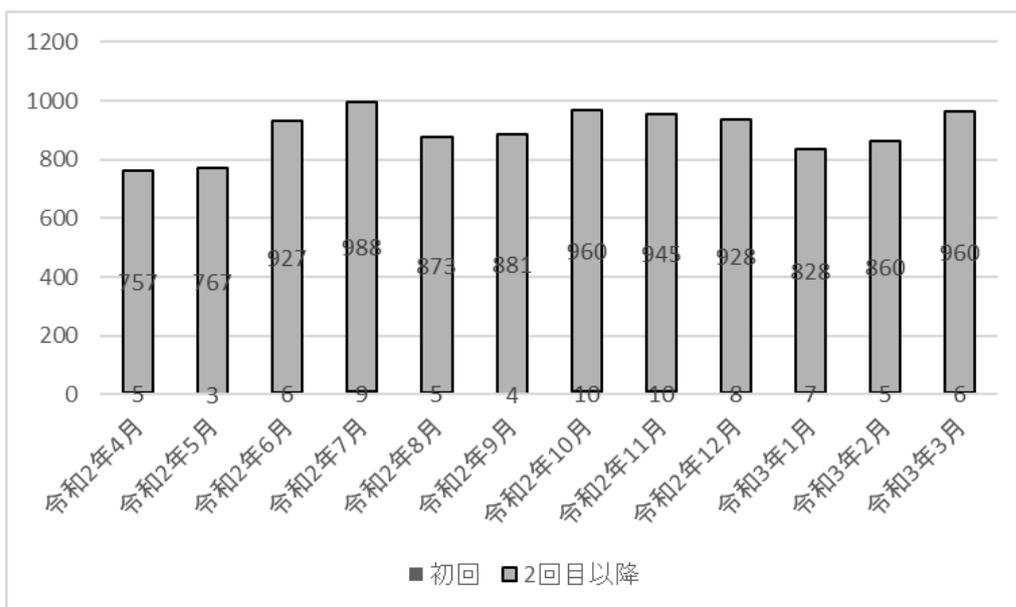
	実利用者数	延べ利用者数
計	248	10,752

(2) 月別通所リハビリテーション実績 (延べ人数) 内訳

診療日数	257
------	-----

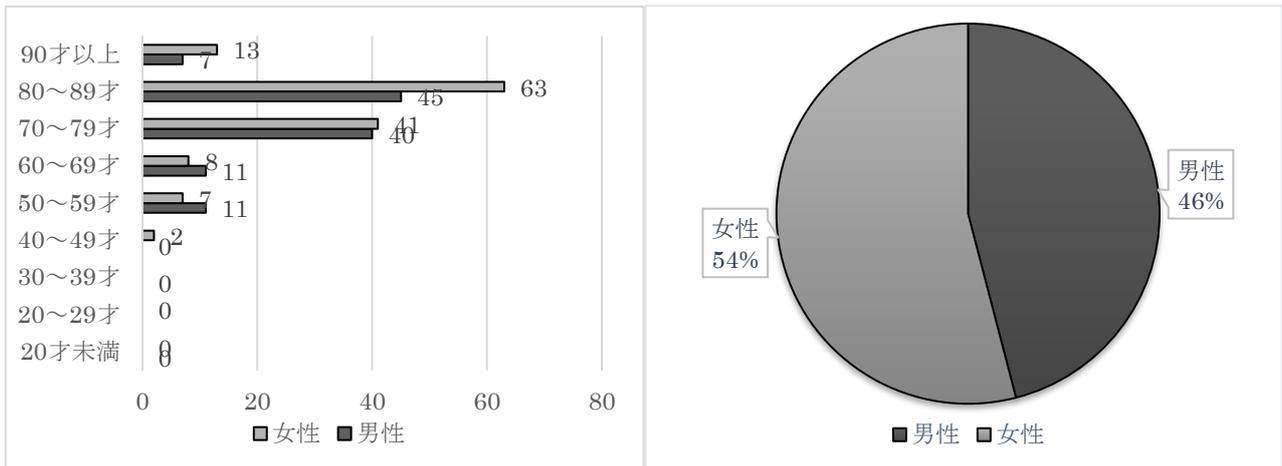
(単位：人)

区分	初回	2回目以降	計
令和2年4月	5	757	762
令和2年5月	3	767	770
令和2年6月	6	927	933
令和2年7月	9	988	997
令和2年8月	5	873	878
令和2年9月	4	881	885
令和2年10月	10	960	970
令和2年11月	10	945	955
令和2年12月	8	928	936
令和3年1月	7	828	835
令和3年2月	5	860	865
令和3年3月	6	960	966
合計	78	10,674	10,752
1日平均患者	0.3	41.5	41.8



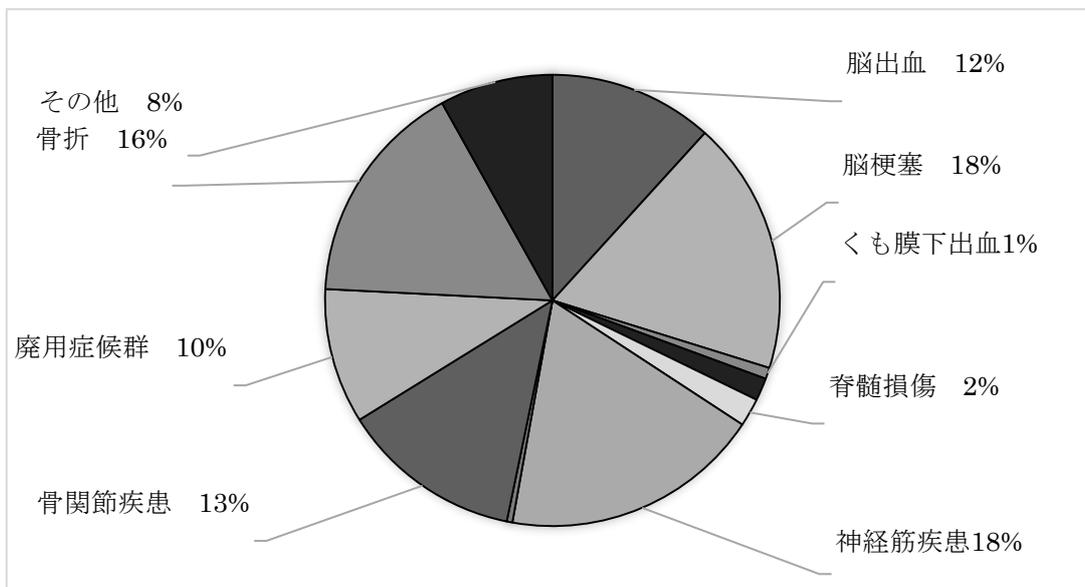
(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳 (単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	0	2	2	0.8%
50～59才	11	7	18	7.3%
60～69才	11	8	19	7.7%
70～79才	40	41	81	32.7%
80～89才	45	63	108	43.5%
90才以上	7	13	20	8.1%
合計	114	134	248	100.0%
平均年齢	77.0	79.0	78.0	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

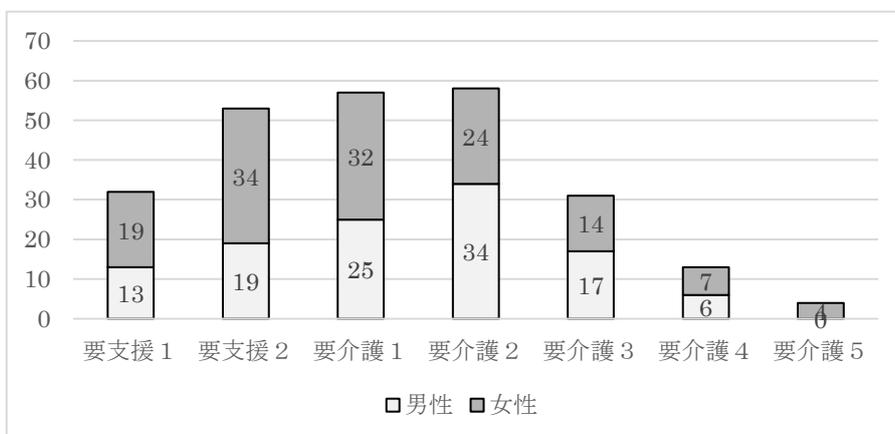
疾患名	患者数	構成割合
脳出血	29	11.7%
脳梗塞	45	18.1%
くも膜下出血	2	0.8%
頭部外傷	4	1.6%
脊髄損傷	5	2.0%
神経筋疾患	46	18.5%
脳腫瘍	1	0.4%
骨関節疾患	32	12.9%
廃用症候群	24	9.7%
骨折	40	16.1%
その他	20	8.1%
合計	248	100.0%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	13	19	32	12.9%
要支援 2	19	34	53	21.4%
要介護 1	25	32	57	23.0%
要介護 2	34	24	58	23.4%
要介護 3	17	14	31	12.5%
要介護 4	6	7	13	5.2%
要介護 5	0	4	4	1.6%
合計	114	134	248	100.0%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市前原西	52	20.97%
船橋市飯山満町	51	20.56%
船橋市前原東	33	13.31%
船橋市芝山	19	7.66%
船橋市薬円台	13	5.24%
船橋市二宮	12	4.84%
船橋市駿河台	9	3.63%
船橋市習志野台	8	3.23%
船橋市三山	7	2.82%
船橋市高根台	5	2.02%
船橋市中野木	5	2.02%
船橋市田喜野井	4	1.61%
船橋市習志野	3	1.21%
船橋市松が丘	3	1.21%
船橋市西習志野	3	1.21%
船橋市坪井東	3	1.21%
船橋市滝台	2	0.81%
船橋市東船橋	2	0.81%
船橋市海神	1	0.40%
船橋市丸山	1	0.40%
船橋市金杉	1	0.40%
船橋市市場	1	0.40%
船橋市七林町	1	0.40%
船橋市新高根	1	0.40%
船橋市大穴南	1	0.40%
船橋市大穴北	1	0.40%
船橋市滝台町	1	0.40%
船橋市二子町	1	0.40%
船橋市二和東	1	0.40%
その他県内	3	1.21%
合計	248	100.0%

3 訪問リハビリテーション利用者

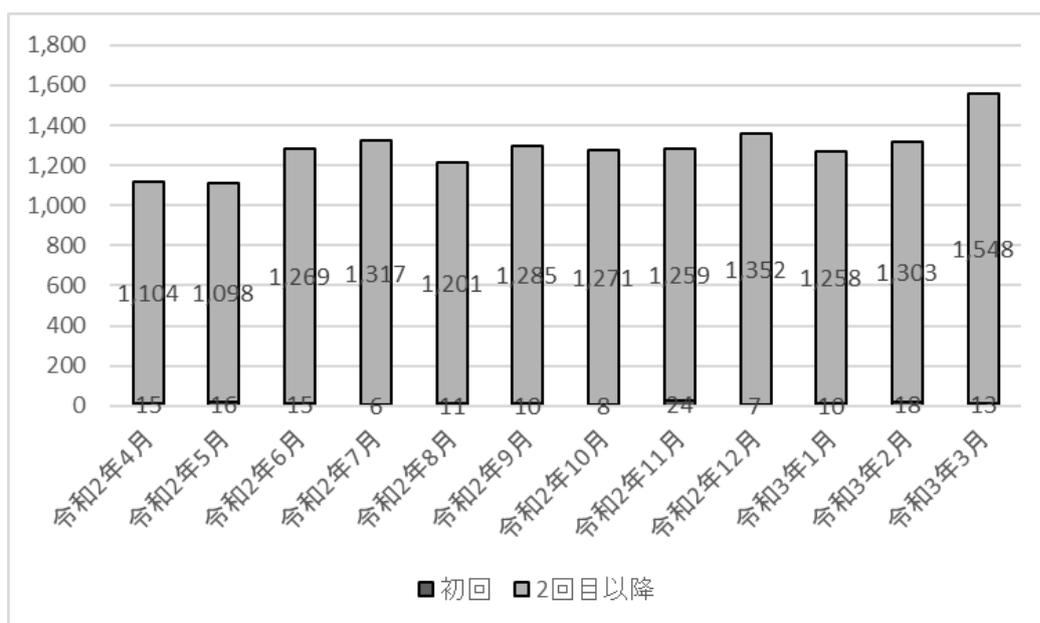
(1) 訪問リハビリテーション利用者数 (単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	270	15,419

(2) 月別訪問リハビリテーション実績 (延べ人数) 内訳

診療日数	257
------	-----

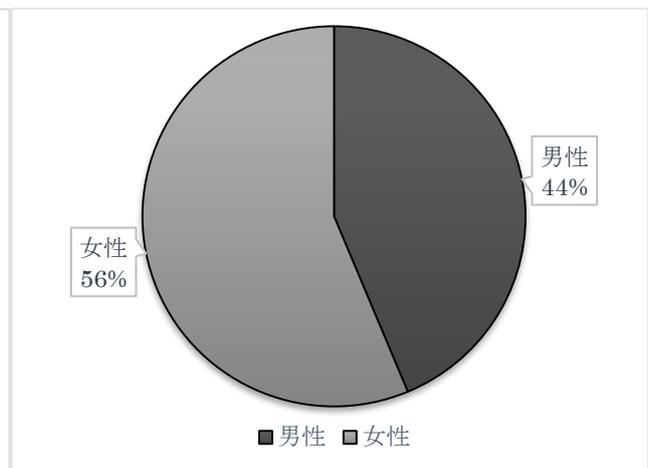
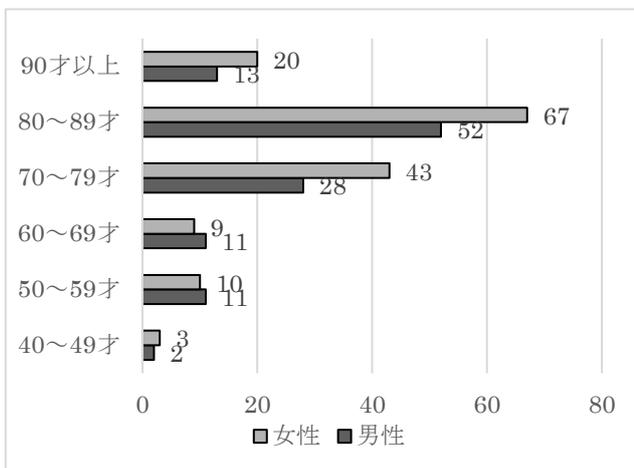
区分	初回	2回目以降	計
令和2年4月	15	1,104	1,119
令和2年5月	16	1,098	1,114
令和2年6月	15	1,269	1,284
令和2年7月	6	1,317	1,323
令和2年8月	11	1,201	1,212
令和2年9月	10	1,285	1,295
令和2年10月	8	1,272	1,280
令和2年11月	24	1,259	1,283
令和2年12月	7	1,352	1,359
令和3年1月	10	1,258	1,268
令和3年2月	18	1,303	1,321
令和3年3月	13	1,548	1,561
合計	153	15,265	15,419
1日平均患者	0.6	59.4	60.0



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳

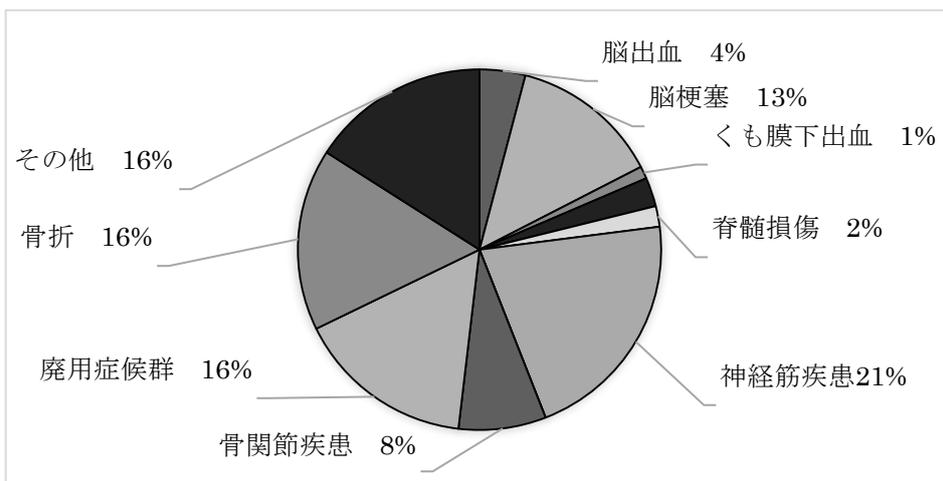
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	1	0	1	0.4%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	3	5	1.9%
50～59才	11	10	21	7.8%
60～69才	11	9	20	7.4%
70～79才	28	43	71	26.3%
80～89才	52	67	119	44.1%
90才以上	13	20	33	12.2%
合計	118	152	270	100.0%
平均年齢	77.0	79.0	78.0	



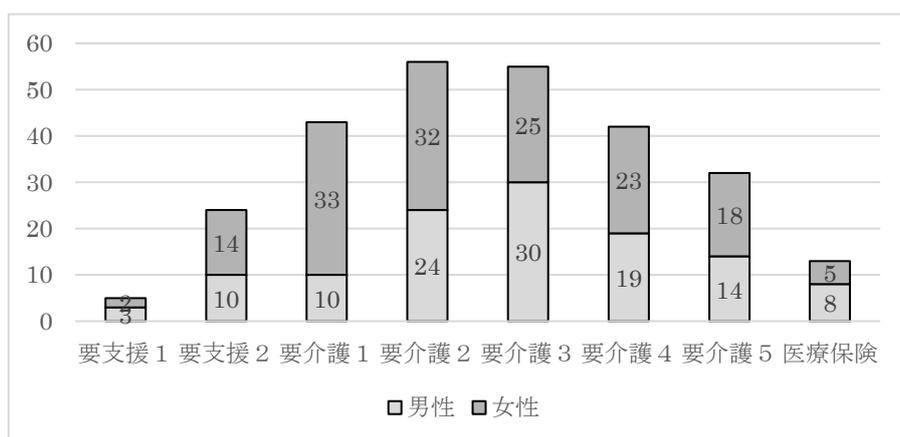
(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合
脳出血	11	4.1%
脳梗塞	36	13.3%
くも膜下出血	3	1.1%
頭部外傷	7	2.6%
脊髄損傷	5	1.9%
神経筋疾患	57	21.1%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	21	7.8%
廃用症候群	43	15.9%
骨折	44	16.3%
その他	43	15.9%
合計	270	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	3	2	5	1.9%
要支援 2	10	14	24	8.9%
要介護 1	10	33	43	15.9%
要介護 2	24	32	56	20.7%
要介護 3	30	25	55	20.4%
要介護 4	19	23	42	15.6%
要介護 5	14	18	32	11.9%
医療保険	8	5	13	4.8%
合計	118	152	270	100.0%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市習志野台	38	14.07%
船橋市三山	27	10.00%
船橋市飯山満町	27	10.00%
船橋市前原西	26	9.63%
船橋市前原東	23	8.52%
船橋市田喜野井	20	7.41%
船橋市高根台	18	6.67%
船橋市芝山	16	5.93%
船橋市薬円台	13	4.81%
船橋市西習志野	8	2.96%
船橋市松が丘	7	2.59%
船橋市二宮	6	2.22%
船橋市緑台	4	1.48%
船橋市習志野	3	1.11%
船橋市新高根	3	1.11%
船橋市滝台	3	1.11%
船橋市中野木	3	1.11%
船橋市坪井東	3	1.11%
船橋市東船橋	3	1.11%
船橋市七林町	2	0.74%
船橋市駿河台	2	0.74%
船橋市宮本	1	0.37%
船橋市山手	1	0.37%
船橋市市場	1	0.37%
船橋市若松	1	0.37%
船橋市坪井西	1	0.37%
船橋市浜町	1	0.37%
その他県内	9	3.33%
合計	270	100.0%

4 訪問看護利用者

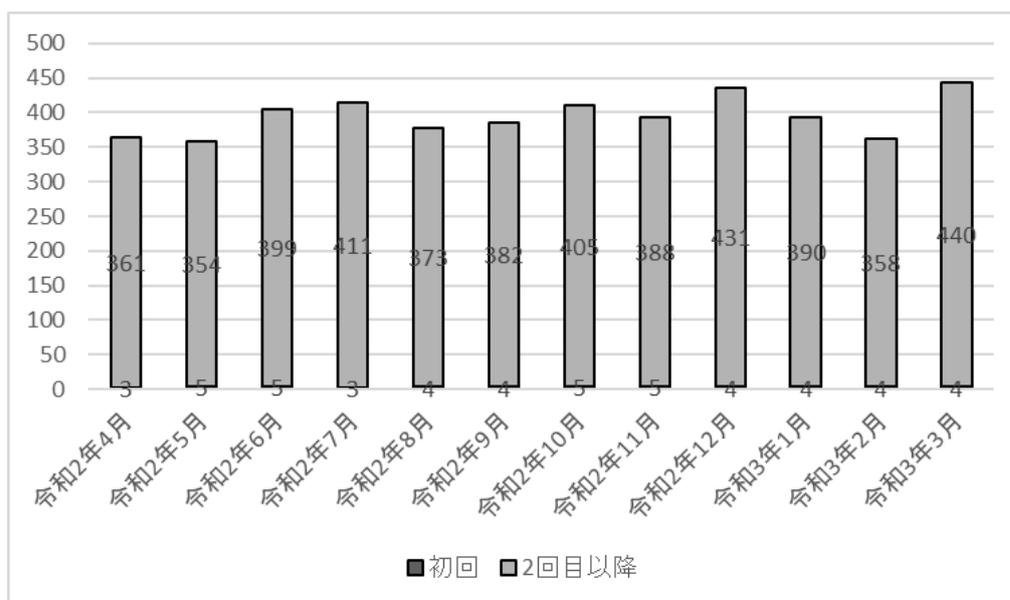
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	110	4,742

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

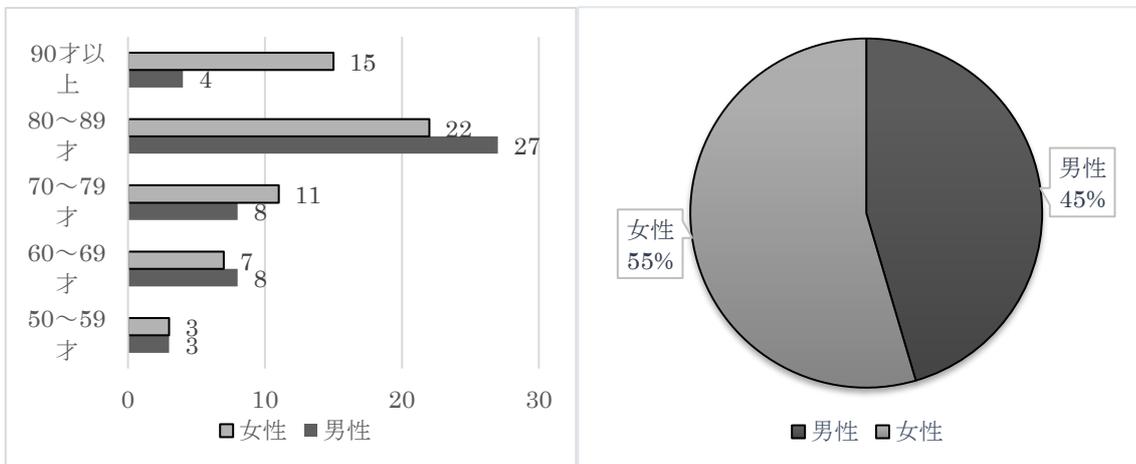
診療日数	257
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
令和2年4月	3	361	364
令和2年5月	5	354	359
令和2年6月	5	399	404
令和2年7月	3	411	414
令和2年8月	4	373	377
令和2年9月	4	382	386
令和2年10月	5	405	410
令和2年11月	5	388	393
令和2年12月	4	431	435
令和3年1月	4	390	394
令和3年2月	4	358	362
令和3年3月	4	440	444
合計	50	4,692	4,742
1日平均患者	0.2	18.3	18.5



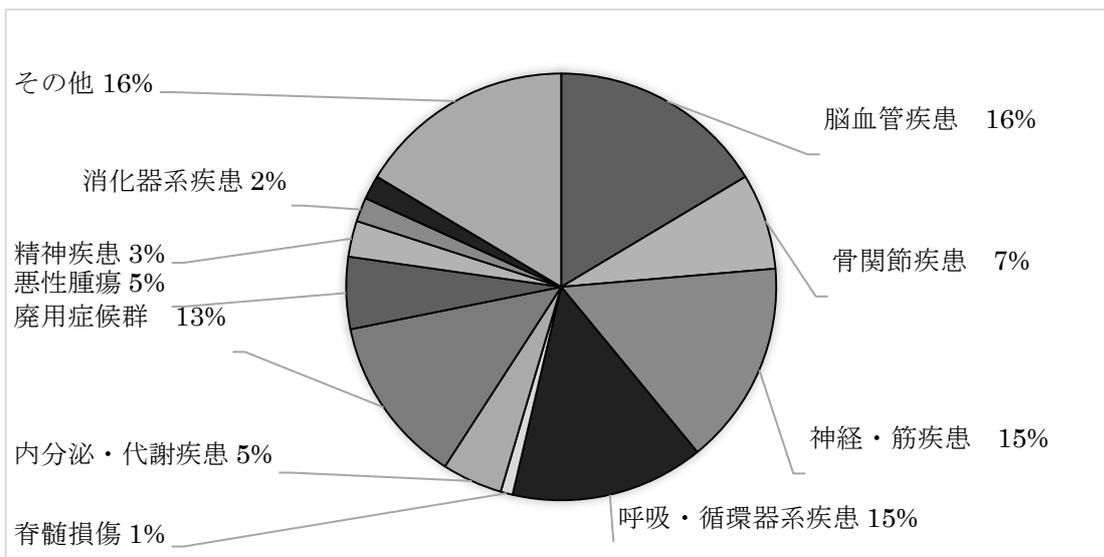
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	1	1	0.9%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	0	1	1	0.9%
50～59才	3	3	6	5.5%
60～69才	8	7	15	13.6%
70～79才	8	11	19	17.3%
80～89才	27	22	49	44.5%
90才以上	4	15	19	17.3%
合計	50	60	110	100.0%
平均年齢	77.9	80.3	79.1	



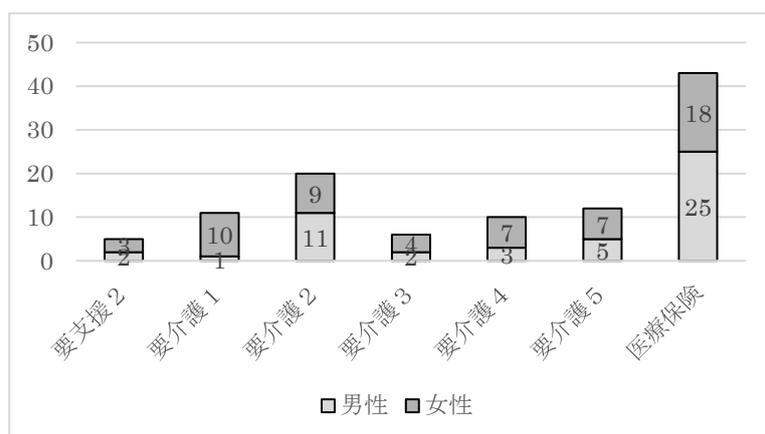
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳血管疾患	18	16.4%
骨関節疾患	8	7.3%
神経・筋疾患	17	15.5%
呼吸・循環器系疾患	16	14.5%
脊髄損傷	1	0.9%
内分泌・代謝疾患	5	4.5%
廃用症候群	14	12.7%
悪性腫瘍	6	5.5%
精神疾患	3	2.7%
消化器系疾患	2	1.8%
内科系疾患	2	1.8%
泌尿器系疾患	0	0.0%
その他	18	16.4%
合計	110	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	1	2	3	2.7%
要支援 2	2	3	5	4.5%
要介護 1	1	10	11	10.0%
要介護 2	11	9	20	18.2%
要介護 3	2	4	6	5.5%
要介護 4	3	7	10	9.1%
要介護 5	5	7	12	10.9%
医療保険	25	18	43	39.1%
合計	50	60	110	100.0%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	25	22.73%
船橋市前原西	17	15.45%
船橋市芝山	10	9.09%
船橋市緑台	9	8.18%
船橋市習志野台	6	5.45%
船橋市二宮	6	5.45%
船橋市高根台	5	4.55%
船橋市薬円台	5	4.55%
船橋市金杉	4	3.64%
船橋市田喜野井	4	3.64%
船橋市夏見	2	1.82%
船橋市夏見台	2	1.82%
船橋市三山	2	1.82%
船橋市駿河台	2	1.82%
船橋市金杉台	1	0.91%
船橋市三咲	1	0.91%
船橋市七林町	1	0.91%
船橋市若松	1	0.91%
船橋市習志野	1	0.91%
船橋市西習志野	1	0.91%
船橋市前原東	1	0.91%
船橋市滝台	1	0.91%
船橋市中野木	1	0.91%
船橋市東船橋	1	0.91%
船橋市浜町	1	0.91%
合計	110	100.0%

5 地域リハビリテーション拠点事業

項目	回数
リハビリ関係者向け講演会	3回
リハビリ関係者向け研修会	3回+動画1本
市民向け講演会	動画配信2本
市民向け研修会	体操資料2種

参加者総数	304	(単位：人)
-------	-----	--------

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

① パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	293

② 月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	22
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和2年4月	0	0
令和2年5月	0	0
令和2年6月	0	0
令和2年7月	0	0
令和2年8月	0	0
令和2年9月	0	0
令和2年10月	129	15
令和2年11月	90	14
令和2年12月	74	14
令和3年1月	0	0
令和3年2月	0	0
令和3年3月	0	0
合計	293	—
1日平均患者	13.3	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

①パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	4,298

②月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	121
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和2年年4月	0	262
令和2年年5月	0	262
令和2年年6月	0	262
令和2年年7月	432	256
令和2年年8月	630	248
令和2年年9月	795	248
令和2年年10月	863	248
令和2年年11月	823	247
令和2年年12月	755	247
令和3年1月	0	261
令和3年2月	0	261
令和3年3月	0	261
合計	4,298	—
1日平均患者	35.5	—

(3) プールリハビリ

①プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	1,973

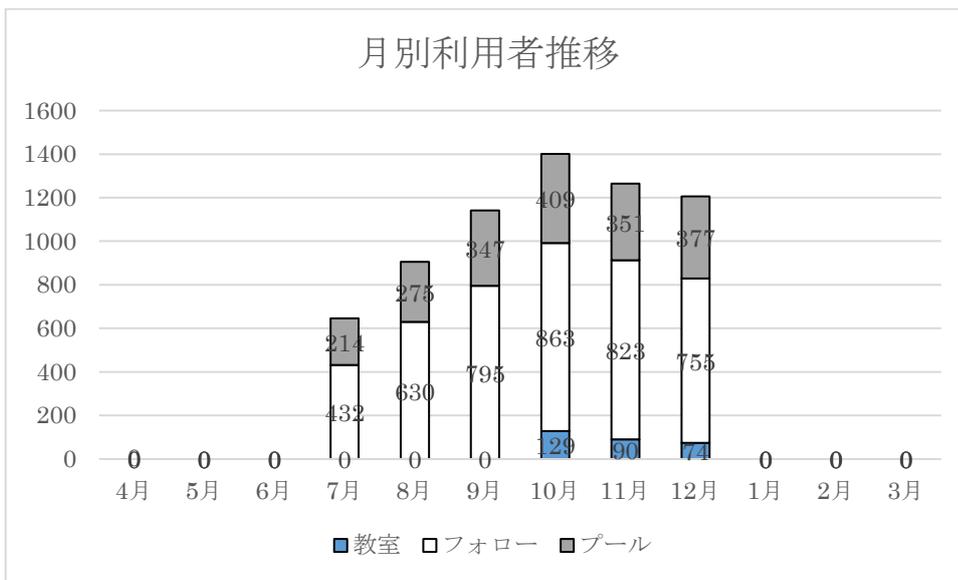
②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	121
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和2年4月	0	142
令和2年5月	0	142
令和2年6月	0	142
令和2年7月	214	142
令和2年8月	275	141
令和2年9月	347	141

令和2年10月	409	144
令和2年11月	351	144
令和2年12月	377	144
令和3年1月	0	144
令和3年2月	0	144
令和3年3月	0	144
合計	1,973	—
1日平均患者	16.3	—



Ⅲ 収支状況

令和2年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

なお、表示単位未満を端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ 事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
医業 収益	利 用 料	0	0	1,641	0	0	1,641
	指 定 管 理 委 託 料	0	0	29,396	12,737	22,400	64,533
	医 療 ・ 外 来 収 益	29,753	0	0	0	0	29,753
	介 護 ・ 外 来 収 益	168,970	26,783	0	0	0	195,753
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0	0	0	0	0	0
	訪 問 看 護 収 益	0	13,777	0	0	0	13,777
	そ の 他 医 業 収 益	361	244	0	0	0	605
計	199,084	40,804	31,037	12,737	22,400	306,062	
保 險 等 査 定 減	-4	0	0	0	0	-4	
計	199,080	40,804	31,037	12,737	22,400	306,058	
医 業 費 用	204,085	36,887	21,515	11,159	16,907	290,553	
医 業 利 益	-5,005	3,917	9,522	1,578	5,493	15,505	
本 部 配 賦 額	0	0	0	0	0	0	
事 業 利 益	-5,005	3,917	9,522	1,578	5,493	15,505	
医業外 収益	受 取 利 息 配 当 金	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 売 却 益	0	0	0	0	0	0
	患 者 外 給 食 収 益	0	0	0	0	0	0
	補 助 金 ・ 負 担 金	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 医 業 外 収 益	3,026	531	3,668	0	0	7,225
計	3,026	531	3,668	0	0	7,225	
医業外 費用	支 払 利 息	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 売 却 損	0	0	0	0	0	0
	患 者 外 給 食 材 料 費	0	0	0	0	0	0
	診 療 費 減 免	0	0	0	0	0	0
	貸 倒 損 失	0	0	0	0	0	0
	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	0	0	0	0	0	0
	資 産 に 係 る 控 除 対 象 外 消 費 税	0	0	0	0	0	0
	繰 延 消 費 税 等 償 却	0	0	0	0	0	0
そ の 他 医 業 外 費 用	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	
経 常 利 益	-1,979	4,448	13,190	1,578	5,493	22,730	
特 別 利 益	固 定 資 産 売 却 益	0	0	0	0	0	0
	施 設 設 備 補 助 金 等 収 入	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 利 益	0	0	0	0	0	0
特 別 利 益	0	0	0	0	0	0	
特 別 損 失	固 定 資 産 廃 棄 売 却 損	0	0	112	0	0	112
	施 設 設 備 補 助 金 等 積 立 金 繰 入	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 評 価 損	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 損 失	0	0	0	0	0	0
特 別 損 失	0	0	112	0	0	112	
税 引 前 当 期 純 利 益	-1,979	4,448	13,078	1,578	5,493	22,618	
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税 負 担 額	0	0	0	0	0	0	
税 金 等 調 整 額	0	0	0	0	0	0	
当 期 純 利 益	-1,979	4,448	13,078	1,578	5,493	22,618	

医業費用内訳

		診療所	訪問看護	リハビリ 事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
給与費	給料	143,835	26,010	12,602	6,894	0	189,341
	賞与	12,750	2,330	1,473	786	0	17,339
	賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	退職給付費用	2,320	255	177	176	0	2,928
	法定福利費	20,743	4,361	2,002	1,209	0	28,315
	計	179,648	32,956	16,254	9,066	0	237,924
材料費	医薬品費	68	0	0	0	0	68
	診療材料費	420	89	94	6	0	609
	医療消耗器具備品費	157	32	0	0	0	188
	給食用材料費	0	0	0	0	0	0
	計	644	121	94	6	0	865
委託費	検査委託費	55	0	0	0	0	55
	給食委託費	0	0	0	0	0	0
	寝具委託費	0	0	0	0	0	0
	医事委託費	0	0	0	0	0	0
	清掃委託費	0	0	0	0	6,600	6,600
	保守委託費	312	0	0	0	103	415
その他委託費	1,767	195	240	266	7,128	9,597	
	計	2,134	195	240	266	13,831	16,667
設備関係費	減価償却費	1,266	538	384	0	0	2,187
	機器賃借料	0	0	0	0	0	0
	地代家賃	6,172	335	0	0	0	6,507
	修繕費	35	0	5	0	0	41
	固定資産税等	20	0	4	0	0	24
	機器保守費	2,061	330	284	0	0	2,674
	機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
	車両関係費	3,603	806	50	0	856	5,315
	計	13,157	2,008	727	0	856	16,749
研究費	研究費	0	0	0	0	0	0
	研修費	77	8	10	1	0	96
	計	77	8	10	1	0	96
経費	福利厚生費	133	35	69	1	0	238
	募集採用費	164	0	0	0	0	164
	旅費交通費	2	0	3	0	0	5
	職員被服費	1,773	263	122	47	0	2,205
	通信費	1,226	372	396	147	0	2,141
	広告宣伝費	0	0	0	230	0	230
	消耗品費	1,762	513	641	252	305	3,474
	消耗器具備品費	310	0	27	0	0	337
	図書費	266	16	0	0	0	282
	会議費	9	0	0	0	0	9
	水道光熱費	1,322	148	0	0	0	1,470
	賃借料	157	5	20	0	0	181
	保険料	246	10	87	1	0	343
	交際費	8	0	0	0	0	8
	諸会費	324	57	0	0	0	381
	租税公課	22	179	2,821	1,132	1,915	6,069
	貸倒損失	2	0	0	0	0	2
	貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	支払手数料	428	0	4	11	0	443
	寄付金費	0	0	0	0	0	0
雑費	270	0	0	0	0	270	
	計	8,422	1,597	4,190	1,821	2,220	18,251
	合計	204,082	36,886	21,515	11,161	16,907	290,551

IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

令和2年度目標：

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③待ち時間についてご満足いただけましたか。
2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和2年度実績： 各項目で目標を達成した

1. 外来患者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0%
「満足」のみの割合 : 73.1%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 96.2%
「満足」のみの割合 : 96.2%
 - ③待ち時間について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 96.2%
「満足」のみの割合 : 80.8%
2. 外来患者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 100.0%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 96.2%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では令和2年度の接遇目標を作成し、職員に周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウトを来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用を必須としたが、体調や表情が読み取りにくくなることに留意して対応するよう職員に周知した。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者へのアンケート①から③の満足度においては、各項目で目標を達成した。

リハビリテーションの質・技術については、前年度（「満足」と「やや満足」を足した割合90.7%、「満足」のみ78.2%）と比較すると「満足」のみではやや低下したものの、「満足」と「やや満足」では100.0%と高い満足度を得られた。個別リハビリの内容について十分な説明と同意のもと取り組んだ結果、目標を達成することができた。待ち時間については前年度90.6%（68.7%）より高い満足度を得られた。引き続き、診療からスムーズにリハビリが開始できるように配慮していく。

外来患者へのアンケート④から⑤の満足度も目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和3年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和2年度目標：

令和2年4月から令和3年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の20以上とする。

令和2年度実績： 5.6%であり、目標を達成できなかった

- ① 令和2年4月から令和3年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：89名（うち、新型コロナウイルス感染症を理由に終了した方：16名）
- ② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：5名
 ※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。
- ③ ①に占める②の割合：5.6%

内訳)

- ・ 目標達成 3名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・ 膝痛を減らし、駅周辺のショッピングモールへ買い物に行き、帰ることができる。	買い物や駅周辺の外出も継続出来ている。 トレーニング内容も自主トレで実施出来るようになった。
・ 膝関節周囲筋の筋力向上、疼痛軽減 ・ 自主トレーニングが定着できるようになり、痛みにより中断したデイサービスを再開する。	以前のような内側裂隙周囲の疼痛はほぼ消失した。翌日よりデイサービスを再開する。
・ 運転ドライバーとしての職場復帰。	体力がつき、ドライバーとしての職場復帰を果たした。

- ・ その他通所介護への移行 2名

目標達成に対する活動状況について

- ① 介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活

動の参加状況を計画書に記録した。

- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は5.6%であり、目標（20%以上）を達成できなかった。前年度の18.1%からも大きく低下した。これは、新型コロナウイルス感染症予防のため利用を中止した方が16名（18.0%）いたことや、「サービス移行」（29.1%→24.7%）に減少したことも影響していると考えられる。

令和3年度は、感染対策に留意し、デイサービス事業所等関係機関と連携を図り、利用者の生活の質向上に寄与するよう、働きかけていく。

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上

令和2年度目標：

介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合を100分の50以上とする。

令和2年度実績：100%であり、目標を達成した

介護福祉士の占める割合：100%

(全体の介護職員数3人　うち介護福祉士3人)

目標達成に対する活動状況について

- ①中重度の要介護者や認知症高齢者に対応できるケア体制を確保した。
- ②法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、無駄のない配置に努めた。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、介護福祉士の占める割合は100%の実績であり、非常に質の高い介護サービスが提供できたと言える。

令和3年度も引き続き、在宅生活を支援するため介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上の30以上

令和2年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

令和2年度実績：100%であり、目標を達成した

勤続年数3年以上の者の占める割合：100%

(全体の職員数23人　うち勤続年数3年以上の職員数23人)

経験年数	人数
3年未満	0人
3～5年	10人
5～10年	9人
10年以上	4人

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は100%の実績となり、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

令和3年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標5 利用者アンケートによる患者満足度

令和2年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和2年度実績：5項目中、1項目で目標を達成できなかった

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①個別リハビリテーションについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 88.3%
「満足」のみの割合 : 61.2%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 93.0%
「満足」のみの割合 : 76.7%
 - ③通所リハビリのスケジュールについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 77.5%
「満足」のみの割合 : 49.6%
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 95.4%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 97.7%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では令和2年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。ま

た、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者へのアンケート①、②の満足度は目標を達成したが、③通所リハビリのスケジュールについては「満足」と「やや満足」が77.5%、「満足」のみが49.6%と、目標を達成できなかった。通所リハビリのスケジュールについては前年度は「満足」と「やや満足」を足した割合81.5%（「満足」のみ57.4%）であった。質問の文面は「通所リハビリの回数（頻度）についてご満足いただいていますか」であるので、もっと回数を増やしたいが希望通りにいかない、という方が多いと考えられる。医師による診察と多職種によるカンファレンスにて必要な頻度を決定し、利用者本人・家族・ケアマネジャーへ説明・共有しているが、希望通りの頻度にならない場合に、満足度が下がってしまう可能性がある。あらためて丁寧な説明を心掛け、利用者本人が納得し、満足度が上がるよう取り組んでいきたい。

また、通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度は目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和3年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和2年度目標：

令和2年4月から令和3年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の20以上とする。

令和2年度実績： 19.2%であり、目標を達成できなかった

① 令和2年4月から令和3年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：125名（うち、新型コロナウイルス感染症を理由に終了した方：7名）

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：24名

※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ訪問リハビリテーションを終了した数。

③ ①に占める②の割合：19.2%

内訳)

・目標達成 10名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・＜心身機能＞関節可動域改善 基本動作が安全に自立してできる 安全に歩ける距離の延長	体重管理を含めて身体機能維持できており、自分のペースで家事や庭仕事が続いている。
・友人との交流の継続 ・スポーツジムの利用が再開できる ・記憶障害に対して代償手段を用いながら自身で生活管理が行える。	・代償手段（メモリーノート）の記録時にメモを確認することでスケジュールの確認が行えるようになった。 ・体力の維持も携帯の歩数を確認しながら自ら定期的に散歩へ行くこともできるようになった。
・左手関節の可動域維持・右肩関節の痛みの再発予防 自主トレーニングが継続して行える	生活上の支障なく過ごされている。デイサービスを開始し、運動機会も保たれている。自身で行えるトレーニング方法をお伝えし定着した。
家族と外出できる(墓参り) 下肢筋力維持、関節可動域維持	墓参りに行けるようになり、ショートステイでの歩行状況も安定。右肩の痛みは継続して訴えているが可動域は維持できている。自主トレも自分でピックアップして、自分にあつたものを行えている。
転ばないで自宅内を移動できる	疼痛の憎悪や転倒なく過ごされてい

手すりにつかまり階段昇降動作が行える	るとのこと。自宅内の家事は全て問題なく実施出来ている。外出もお一人で近所の公園に散歩に行かれたり、ご家族と一緒に車で買い物に行っている中を歩いたりなど活動範囲は徐々に拡大中。
屋外歩行距離が延長する 疼痛管理しながら生活ができる 1人で買い物に行ける	腰部痛に配慮した生活や自己管理が維持できており、屋外歩行も安定して実施できている。日中の活動量及び身体機能の維持が今後とも可能となった。

・通所リハビリへ移行 14名

目標達成に対する活動状況について

- ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は19.2%であり、目標を達成できなかった。終了者のうち、新型コロナウイルス感染症を懸念して訪問中止を希望された方や通所系サービス利用を希望されなかった方がいたことが特徴であった。また、利用者自身が感染し、入院・中止となったケースもあった。

令和3年度は、スタッフの感染対策に留意し、通所系サービス事業所等関係機関と連携を図り、利用者の生活の質向上に寄与するよう、働きかけていく。

目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

令和2年度目標：

利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。

令和2年度実績：100%であり、目標を達成した

勤続年数3年以上の者の占める割合：**100%**

理学療法士 13人 (うち勤続年数3年以上の者) 13人

作業療法士 4人 (うち勤続年数3年以上の者) 4人

言語聴覚士 2人 (うち勤続年数3年以上の者) 2人

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は100%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。

令和3年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

令和2年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③訪問のスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和2年度実績： 各項目で目標を達成した

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 92.3%
「満足」のみの割合 : 73.3%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 97.1%
「満足」のみの割合 : 83.8%
 - ③訪問リハビリのスケジュールについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 86.7%
「満足」のみの割合 : 70.5%
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 94.5%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 94.4%

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上
法人の教育研修局が基軸となり、訪問リハビリに従事する全職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。ま

た、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度は、各項目で目標を達成した。リハビリテーションの質・技術は前年度は「満足」と「やや満足」を足した割合86.3%（「満足」のみ67.4%）であったが、接遇を意識し丁寧な対応を実践したことで、さらに改善することができた。

また、訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度も目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和3年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

IV 訪問看護利用者について

目標9 利用者アンケートによる患者満足度

令和2年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

令和2年度実績：3項目中、1項目で目標を達成できなかった

① 訪問看護について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 86.5%

「満足」のみ割合 : 81.1%

② 職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 86.5%

「満足」のみ割合 : 75.7%

③ 訪問看護のスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 77.8%

「満足」のみ割合 : 66.7%

目標達成に対する活動状況について

① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③ 訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護利用者へのアンケート①、②の満足度においては、目標を達成した。③については、回答数36人のうち7人(19.4%)が未記入であり、これを除いて集計すると「満足」と「やや満足」が28人で96.6%、「満足」のみが24人で82.8%となった。

令和2年度は、非常勤訪問看護職員を2名採用し、利用者数も増加することができた。

令和3年度も引き続き、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標10 利用者アンケートによる満足度

令和2年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

令和2年度実績： アンケートを実施できなかった

① 職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：

「満足」のみの割合：

② パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：

「満足」のみの割合：

③ プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：

「満足」のみの割合：

目標達成に対する活動状況について

① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、同様な対応をとり満足度の向上を図った。

② 待ち時間に対する満足度の向上

令和2年度は6月末まで休止し、7月1日より定員をパワーリハフォロー30名→15名、プール20名→10名、実施時間90分⇒80分（運動時間60分）に変更し再開した。この変更により予約システムを活用できなくなったため、「予約日時確認カード」を利用した予約方法へ変更した。しかし人手で行うため予約にかかる手間・時間が大きく増加した。令和2年12月28日から2回目の休止となり令和2年度中は再開できなかった。

④ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

例年、1月～3月の間にアンケートを実施していたが、令和3年は1月～3月まで休止期間であり再開できず、アンケートも実施できなかった。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標11 診療所部門 経常収支比率

令和2年度目標： 診療所経常収支比率 100%以上
令和2年度実績： 診療所経常収支比率 99.0% と目標を達成できなかった ※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して 100を乗じて算出した割合で算出。
目標達成に対する活動状況について ① 増患対策 ・ 外来リハ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市立医療センター等急性期病院へ当クリニックの案内を実施した。 ・ 外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、船橋市立リハビリテーション病院と当クリニックの空き枠情報を共有し、リハ病院退院患者で当クリニックに居住地が近い患者の積極的な受け入れを行った。 ・ 令和2年度も非常勤医師の勤務日数を週3日確保し、外来・通所の新患外来を積極的に実施。またこれにより往診枠を確保し、訪問リハ件数が増加しても3ヶ月に1回の往診が継続できる体制とした。 ・ 通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所との情報交換を実施した。 ・ センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。 ② 費用の削減 ・ 患者・利用者の減少時・増加時に無理・無駄の無いスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、他の拠点との人事異動を可能にし、常に適切な人員配置に努めた。
令和2年度の実績に基づく今後の改善点について ※外来リハ 令和2年度実績 26.7人／日（前年度対比 -3.4人／日） ※通所リハ 令和2年度実績 41.8人／日（前年度対比 -4.3人／日） ※訪問リハ 令和2年度実績 60.0人／日（前年度対比 +12.4人／日） 外来リハ・通所リハは新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、前年度より患者数は減少した。一方、訪問リハは逆にニーズが高まり、患者数は大きく増加した。 令和2年度の経常利益は-1,979千円で、診療所経常収支比率は99.0%であった。前年度は-17,319千円で経常収支比率は91.4%であったため、目標は達成できなかったが大きく改善した。 令和3年度においても引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら、患者・利用者が安心して通院できるよう、また、安心して自宅でリハビリを受けることができるよう、クリニック運営を行っていく。

目標12 訪問看護部門 経常収支比率

令和2年度目標： 訪問看護経常収支比率 100%以上

令和2年度実績： 訪問看護経常収支比率 112.1% と目標を達成した
※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・サービスエリア内居宅介護支援事業所と情報交換を実施した。
- ・訪問看護からの訪問リハ（訪問看護I5）を実施し、訪問看護・訪問リハの併用が必要な利用者についてケアマネジャーが依頼しやすい体制を整え、訪問看護件数の増加を図った。

②費用の削減

- ・看護師は紹介会社経由で採用すると高額な紹介手数料が発生する。可能な限り紹介会社を使わなくてすむよう、同法人他拠点の退職希望者への声掛けなどを行うことで、費用を抑えた採用につなげた。

令和2年度の実績に基づく今後の改善点について

※訪問看護 令和2年度実績 18.5人／日（前年度対比 +4.7人／日）

訪問看護からの訪問リハ（訪問看護I5）件数が増加したことで、訪問看護全体の実績も増加した。（看護のみ件数15.5人／日、リハ件数3.0人／日）

令和2年度の経常利益は4,448千円で、訪問看護経常収支比率は112.1%であった。前年度は1,310千円で経常収支比率は104.2%であり、前年度比で見ても増加した。

令和3年度においては引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら、利用者増加を図っていく。

3. その他管理に関する重要事項

目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う

<p>令和2年度目標： 地域リハビリテーション拠点事業に定めた事業内容を最低限行うこと。</p>																									
<p>令和2年度実績： 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合形式での講演会や研修会は開催できなかったが、Web形式で行うことで、計画通り事業を実施した。</p>																									
<p>目標達成に対する活動状況について</p> <table border="0"> <tr> <td>①リハビリセンターパンフレット作成</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布</td> <td>2回/年</td> </tr> <tr> <td>③リハビリセンター刊行物の作成、配布</td> <td>4回/年</td> </tr> <tr> <td>④ホームページに最新情報を掲載</td> <td>2回/年</td> </tr> <tr> <td>⑤市民向け講演会開催</td> <td>動画配信2本/年</td> </tr> <tr> <td>⑥市民向け研修会開催</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 自宅でできる体操チラシ配布、ホームページへ掲載</td> <td>2回/年</td> </tr> <tr> <td>⑦リハビリ関係者向け講演会開催</td> <td>3回/年</td> </tr> <tr> <td>⑧リハビリ関係者向け研修会開催</td> <td>3回/年、動画配信1本</td> </tr> <tr> <td>⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告</td> <td>2回/年</td> </tr> <tr> <td>⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。</td> <td></td> </tr> </table> <p>(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)</p>		①リハビリセンターパンフレット作成	1回/年	②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布	2回/年	③リハビリセンター刊行物の作成、配布	4回/年	④ホームページに最新情報を掲載	2回/年	⑤市民向け講演会開催	動画配信2本/年	⑥市民向け研修会開催		自宅でできる体操チラシ配布、ホームページへ掲載	2回/年	⑦リハビリ関係者向け講演会開催	3回/年	⑧リハビリ関係者向け研修会開催	3回/年、動画配信1本	⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告	2回/年	⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。		⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。	
①リハビリセンターパンフレット作成	1回/年																								
②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布	2回/年																								
③リハビリセンター刊行物の作成、配布	4回/年																								
④ホームページに最新情報を掲載	2回/年																								
⑤市民向け講演会開催	動画配信2本/年																								
⑥市民向け研修会開催																									
自宅でできる体操チラシ配布、ホームページへ掲載	2回/年																								
⑦リハビリ関係者向け講演会開催	3回/年																								
⑧リハビリ関係者向け研修会開催	3回/年、動画配信1本																								
⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告	2回/年																								
⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。																									
⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。																									
<p>令和2年度の実績に基づく今後の改善点について</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受け、これまでの方法では研修会、勉強会を開催することができなかった。ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等を通じて、各団体と協議し、これまで集合で行っていたことを、Webを活用した研修会、勉強会に切り替え開催した。令和3年度も、状況に合わせた形での地域リハビリテーション拠点事業の展開を検討していく。</p>																									